

加藤恭子ゼミ 登竜門企画「二十歳のころ」

好きなことで生きていく

D 班 今野 土肥 横井

はじめに

今回、私たちがこの発表をするにあたり、これから人事について学んでいくので、その仕事に携わっている方の話を伺いたいと考えていた中、私たちのお願いに応じてくださったのが株式会社ドトールコーヒー 人事部 採用教育課の森口優さんでした。

インタビュー内容

～二十歳のころから現在まで～

大学の法学部へ在籍していたため、法関係の仕事に就きたいと思っており、資格取得のため勉強に打ち込んでいました。しかし、具体的な将来像はなく、「将来はやりたいことをやればいいな…」と思っていたそうです。

また、アルバイトが大好きだった森口さんは同じアルバイトを四年間も続けました。これはなによりも、職場の人間関係がよかったからだと言っていました。

大学卒業後、ベンチャー企業の営業職に就きましたが、当時は働くときに何が重要かを考えてなく、やりがいにはありましたが自社製品に思い入れがなく、それなのに自社製品をお客様に勧めることにモヤモヤしていました。そこで、コーヒーが好きだった森口さんは一番口に合うドトールコーヒーへの転職を決意し、三年間はドトールの店長として現場経験を積んだ後、希望通りの人事部へ配属されました。

～入社時と現在の心境の変化～

入社時は率直にドトールコーヒーが好きでしたが、数年間働いていくうちに、コーヒーに対するドトール独自のこだわりを知っていき、よりドトールコーヒーが好きになっていきました。今では世間にドトールコーヒーを知ってもらいたい！と思っているそうです。

他にも、職場の人間関係が良好なことや好きなことを仕事にしているということも意識向上の重要な要因となっています。

～働く上で大変なこと～

入社時は、コーヒーは好きでしたが、知識が乏しかったため仕事が上手くいかなかったりしたことに悔しさを感じたそうです。また、時々残業などをすることがありましたが、辛いなどとはありませんでした。なぜなら、他のアルバイトやスタッフの責任ではなく、社員（自分）の責任であると考えていたからです。これを森口さん曰く、「自責の考え」と言います。

上司になってからは、伝えることの難しさを痛感したそうです。学生の頃は受け身が基本であったため、教える立場になり、どうすれば一番わかりやすく伝えることができるのかなどに悩んでいました。

～二十歳のころやってよかったこととアドバイス～

やってよかったことは、「アルバイトを四年間続けていてよかった。」とおっしゃっていました。これは、自分の価値観というのはアルバイト先や部活などの組織の中で形成されていくものであると気づくことができたから、また同時に、好きなことで仕事をしたい！という思いも形成されたからだということです。

生活面におけるアドバイスは、今しかできないことを今のうちに経験しておくこと。自分のやりがいを見つけておくこと。

就職活動においては、「何で」この会社を選んだのか、この会社で「何を」して「どのように」活躍したいのかを明確にすることが大事だとアドバイスをくれました。

感想

今野 今はちゃんと学校での勉強もしつつ、いっぱい遊ぼうと思った。

土肥 受動的に大学時代を過ごすのではなく、より積極的に、能動的に今しかできないことをしていきたい。

横井 学生のうちは時間の融通も聞くとと思うのでその中で様々な経験をして、将来に活かしていきたい。

最後に

今回、ゼミに入って初めての課題である二十歳のころを終えて、企業にアポを取ることなどの大変さを身をもって感じました。その中でも、インタビューにご協力いただいた、ドトールコーヒーの森口さんにはとても貴重なお話をしていただき、班員一同、とても感謝しております。

森口さんのように将来働く際に、本当に自分のやりたいことを見つけていけることができたら良いなと思うと同時に、働く上で仕事にやりがいを感じることもとても大切なこと

なんと改めて理解することができました。

初めての課題であり、プレゼンの準備やパワーポイント・レジュメの作成などで苦勞する面も多々ありましたが、この経験を今後の大学生活に活かしていきたいと思います。

お忙しい中、私達のインタビューに応じてくださった森口優さんの益々のご活躍をお祈りし、そのご厚意に改めて心よりお礼申し上げます。